

# 大洲ロータリークラブ杯青少年なわとび選手権大会競技規定

## ☆ 参加規定

- 1 申し込みは、締切日までに、大会事務局に申し込む。締切日以降や当日の申し込み、ならびに出場する種目の変更は、一切認めない。
- 2 出場種目は、個人1人3種目（※親子とびを除く）とする。
- 3 団体種目「ダブルダッチ1分」は、違うカテゴリーの選手がチームに含まれていても構わない。その場合は、最も上のカテゴリーに属している選手の部門で出場することとする。  
（例）小学生低学年と小学生中学年が合同で出場する場合は、中学年の部に出場することになる。
- 4 健康状態については、保護者・チーム責任者が責任をもつこと。傷害保険料を越える範囲の事故については、協会は責任を負わない。
- 5 棄権する場合は、大会前日までに大会事務局にメールで届け出る。やむを得ない場合は当日も可。  
※[contact@ehime-nawatobi.com](mailto:contact@ehime-nawatobi.com) または [ehime.jump.rope@gmail.com](mailto:ehime.jump.rope@gmail.com)
- 6 規定にない事態が発生したときは、競技部（会長・審判長・事務局等）で協議し決定する。

## ☆ カテゴリー

- 個人種目：未就学児、小学生1年、2年、3年、4年、5年、6年、中高生部門  
※中高生部門のカテゴリーは男女別とする。
- 団体種目：未就学児、小学生低学年、小学生中学年、小学生高学年、中高生部門

## ☆ 競技種目

【個人種目】※1人3種目まで（親子とびを除く）

未就学児：前とび、あやとび、交差とび、二重とび、親子とび

小学生：かけ足とび、あやとび、交差とび、二重とび、あや二重とび、親子とび

中高生：かけ足とび、二重とび、三重とび

【団体種目】

ダブルダッチ1分、みんなでジャンプ

## ☆ 表彰規定

【個人種目】

- ・ 参加者全員に記録証を当日授与する。
- ・ 各カテゴリー各種目上位3位までには、賞状を授与する。

【団体種目】

- ・ 参加チームに記録証を当日授与する。
- ・ 各カテゴリー上位3チームには、賞状を授与する。

## ☆ 競技規定

※ 競技中にロープが切れたり破損したりした場合、出場順を改めて一度だけやり直すことができる。

【個人種目】

計測種目（前とび・かけ足とび・親子とび）

（前とび）

- 1 30秒間で前とび（両足）を何回跳べるかを競う。記録は30秒間に跳んだ合計跳躍回数（着地した回数）で表わす。ただし、1回旋2跳躍も1回として計測する。
- 2 「Set」から開始のブザーまでは身体もロープも動かさないこと。ブザー前にロープを回し始めたり、明らかにジャンプに関連するような動きがあったりした場合には、不正スタートとなり、合計跳躍回数から10回をマイナスする。
- 3 競技終了後、直ちに審判が個人記録カードに記入する。

(かけ足とび)

- 1 30秒間でかけ足とびを何回跳べるかを競う。記録は30秒間に右足が地面についた合計跳躍回数で表す。
- 2 「Set」から開始のブザーまでは身体もロープも動かさないこと。ブザー前にロープを回し始めたり、明らかにジャンプに関連するような動きがあったりした場合には、不正スタートとなり、合計跳躍回数から10回をマイナスする。
- 3 競技終了後、直ちに審判が個人記録カードに記入する。
- 4 前回しても後回しても、どちらでもよい。

(親子とび)

- 1 30秒間で親子とびを何回跳べるかを競う。記録は30秒間も跳んだ合計跳躍回数(着地した回数)で表わす。ただし、1回旋2跳躍も1回として計測する。
- 2 「Set」から開始のブザーまでは身体もロープも動かさないこと。ブザー前にロープを回し始めたり、明らかにジャンプに関連するような動きがあったりした場合には、不正スタートとなり、合計跳躍回数から10回をマイナスする。
- 3 親子とびに出場する子どもが複数の場合は、一緒に跳ぶ保護者は同じでもよい。
- 4 競技終了後、直ちに審判が個人記録カードに記入する。
- 5 前回しても後回しても、どちらでもよい。

### 持久種目(あやとび・交差とび・二重とび・三重とび)

- 1 記録は跳んだ回数(着地した回数)で表わす。ただし、1回旋2跳躍も1回として計測し、あやとびについては手がクロスした回数を数える。
- 2 「はじめ」の合図があり、一回旋技・二回旋技・三回旋技を跳びはじめ、ロープが足に引っかかった時や、跳ぶのをやめたとき、また三回旋技は二回旋技や一回旋技、二回旋技は一回旋技になってしまったときが終了となる。
- 3 記録は、やめたときに両足ともロープを越えていれば、その跳躍は記録に入れるが、そうでない場合は、最後の跳躍は記録に入らない。
- 4 試技は1回とし、10回以上跳べた場合は、それを記録とする。記録が10回に満たない場合は、直後にもう一度試技できる。ただし、それでも10回に満たないときは、よい方が記録となる。
- 5 競技終了後、直ちに審判が個人記録カードに記入する。
- 6 前回しても後回しても、どちらでもよい。

## 【団体種目】

### ダブルダッチ1分

- 1 1分間でダブルダッチかけ足とびを何回跳べるかを競う。記録は1分間に右足が地面についた合計跳躍回数で表す。
- 2 「Set」から開始のブザーまでは身体もロープも動かさないこと。ブザー前にロープを回し始めたり、明らかにジャンプに関連するような動きがあったりした場合には、不正スタートとなり、合計跳躍回数から10回をマイナスする。
- 3 選手はターナー2人、ジャンパー1人とする。未就学児部門または小学生部門のロープの回し手(ターナー)は、未就学児または小学生が1人以上でなければならない。
- 4 ロープの長さは、自由とする。
- 5 競技終了後、直ちに審判が個人記録カードに記入する。

### みんなでジャンプ(1分)

- 1 競技時間は1分間とし、時間内であれば何度でも挑戦できる。記録は、開始のブザー合図から終了のブザー合図までの最大跳躍回数を基にしたポイント制とする。
- 2 「Set」から開始のブザーまでは身体もロープも動かさないこと。ブザー前にロープを回し始めたり、明らかにジャンプに関連するような動きがあったりした場合には、不正スタートとなり、最大跳躍回数から10回をマイナスする。

3 「ジャンパーの人数」×「連続で跳んだ最大の回数」を基本ポイントとする。

(ポイント計算例)

・ジャンパーが3人で200回跳んだ場合・・・ 3人×200回=600ポイント

・ジャンパーが15人で60回跳んだ場合・・・ 15人×60回=900ポイント

・ジャンパーが30人で20回跳んだ場合・・・ 30人×20回=600ポイント

4 選手は3人以上とする。ロープの回し手(ターナー)2人を除く。上限はない。

5 小学生部門のロープの回し手(ターナー)は、小学生が1人以上でなければならない。未就学児部門のロープの回し手(ターナー)はだれでもよい。

6 競技終了後、直ちに審判が個人記録カードに記入する。